共 同 研 究

（2020年4月1日～2021年3月31日）

〈重点共同研究〉

「運動」としての大衆文化

（研究代表者　大塚 英志）

〔共同研究者名〕

アルバロ・ダビド・エルナンデス・エルナンデス、前川 志織、佐野 明子、板倉 史明、内田 力、菊地 暁、神松 一三、近藤 和都、嵯峨 景子、杉本 仁、鈴木 麻記、鈴木 洋仁、團 康晃、鶴見 太郎、石田 美紀、萩原 由加里、ビョーン＝オーレ・カム、藤岡 洋、牧野 守、松井 広志、室井 康成、雑賀 忠宏、竹村 民郎、川松 あかり、藤嶋 陽子、花田 史彦、香川 雅信、横田 尚美、谷島 貫太、滝浪 佑紀、櫻木 千恵、北浦 寛之、川口 典成、山本 忠宏、伊藤 慎吾、オウ ケイカイ

〔海外共同研究員名〕

浅野 龍哉、蔡 錦佳、斉 梦菲、秦 剛、マーク・スタインバーグ、宣 政佑、エドモン・エルネスト・ディ・アルバン

〔研究発表〕

〈第10回研究会〉

2020年8月27日（オンライン開催）

鈴木 洋仁「ニコニコ動画は『運動』だったのか？ 協働という観点から見るポピュリズムとweb」

團康 晃「子どもの読書環境と読書内容の変容」

佐野 明子「戦後日本におけるアニメーションのファン文化の興隆と意義」

宣 政佑「韓国と日本の「下請けシステム」とその「作者」について」

ビョーン＝オーレ・カム「負けるプレイ・高揚させるプレイ―LARPでの共同創造的なストーリーテリング」

杉本 仁「後藤総一郎と常民大学運動」

神松 一三「①正力松太郎の新聞事業観―大阪毎日新聞の本山彦との比較において― ②正力松太郎による読売新聞の紙面改革とその源流 ③三原山火口探検のメディア史的検証」

孫 旻喬「「人造人間」はなぜ泣くか？――田川水泡『人造人間』からみるマンガとアバンギャルド芸術の接点――」

鶴見 太郎「柳田民俗学の組織化」

内田 力「東京帝大セツルメントにおける大衆メディア活用とその後：災害後のメディアと社会運動」
前川 志織「戦間期日本における製菓会社PR誌のグラフィック・デザインと『企業内工房』」
室井 康成「史伝小説という戦略―海音寺潮五郎における「西郷隆盛」の人物造形をめぐって―」
花田 史彦「映画観客としての戦後思想家―丸山真男を中心に」
板倉 史明「1980年代における特撮映画コンテストと特撮ファン共同体――伊丹グリーン劇場における『グリーンリボン賞』受賞作品から読み解く」
萩原 由加里「鴨川をどりにおけるプロパガンダ―花街の中での戦争」
藤岡 洋「199x–200x アングラ空間の穴からみえた世界」
マリア・デル・カルメン・バエナ・ルピアネス（連携研究員）「スペインのコミックにおける日本の文化の研究とそのフランス語、英語、日本語への翻訳：自殺の森のケース」
近藤 和都「“へき地”からのアニメ視聴者運動：雑誌上のリストと投稿欄を通じたファン実践に着目して」
(2) 川松 あかり「語り継ぐことと文化創造運動のあいだ―旧産炭地筑豊における「地べたの声を聴く会」の活動から」
金 日林「日韓基本条約以降の東映動画の韓国進出」
蔡 錦佳「戦中戦後の台湾における二重統制下の漫画・運動そして日本大衆文化の海外事例」
横田 尚美「参加を求める戦時下の婦人雑誌―衣生活を中心に―」
雑賀 忠宏「『悪書追放』から『作家としての姿勢』へ」
菊地 暁「さらにいくつもの〈こども風土記〉のために」
エドモン・エルネスト・ディ・アルバン「街空間と運動としての女性向けメディアミックス」
山本 忠宏「1910年代の写真小説における両義性とその実践」
アルバロ・ダビド・エルナンデス・エルナンデス「閉じた世界の開かれたネットワーク―ボーカロイドムーブメントにおける参加と活動」

応永・永享期文化論―「北山文化」「東山文化」という大衆的歴史観のはざまで―
（研究代表者　大橋 直義、呉座 勇一）
〔共同研究者名〕

高橋 悠介、橋本 正俊、猪瀬 千尋、今枝 杏子、大河内 智之、川口 成人、川本 慎自、小助川 元太、小山 順子、坂本 亮太、重田 みち、谷口 雄太、貫井 裕恵、山田 徹、芳澤 元、大澤 絢子、伊藤 慎吾

〔海外共同研究員名〕

亀田 俊和

〔研究発表〕

〈第8回研究会〉

2020年6月20日（オンライン開催）

石井 悠加（ゲストスピーカー）「蓮如と和歌　絵巻補作と歌歴から」

谷口 雄太「足利直冬の上洛・没落と石塔・桃井・山名・斯波―『三国伝記』が描いたもの・描かなかったもの―」

〈第9回研究会〉

2020年9月19日（オンライン開催）

川口 成人「紀伊畠山氏と室町文化　―伴雲軒紹高と畠山右馬頭家をめぐって―」

川本 慎自「夢窓派の応永期」

三輪 眞嗣（ゲストスピーカー）「応永・永享期における東大寺の惣寺と院家」

2020年9月20日（オンライン開催）

中本 真人（ゲストスピーカー）「北山惣社御神楽と綾小路信俊」

高橋 悠介「『三国伝記』の神祇関係説話小考」

柏原 康人（ゲストスピーカー）「『三国伝記』における「霊地」考」

牧野 和夫（ゲストスピーカー）「『三国伝記』：琵琶湖東の宗教的環境の一端　―倍山と常陸・出羽・濃尾―」

〈第10回研究会〉

2020年12月13日（オンライン開催）

貫井 裕恵「室町期における東寺と東寺執行家について」

大河内 智之「粉河寺式千手観音像図像の成立と展開　―縁起の図像化―」

伊藤 伸江（ゲストスピーカー）「正徹周辺の学芸と和歌活動　―応永二十年代から永享年間を中心に―」

大衆文化と文明開化：幕末から明治への激動期における大衆メディアの位置及び役割

（研究代表者　アリステア・スウェール）

〔共同研究者名〕

瀧井 一博、ジョン・ブリーン、古川 綾子、石上 阿希、西山 由理

花、サイモン・パートナー、森岡 優紀、松田 宏一郎、土屋 礼子、五百旗頭 薫、菅原 真弓、百瀬 響、大久保 健晴、アレキサンダー・ベネット、岡本 貴久子、土谷 桃子、奈良岡 聰智、細川 周平

〔研究発表〕

〈第5回研究会〉

2020年12月19日（オンライン開催）

今後の研究計画と成果の公表についての意見交換

松田 宏一郎、土屋 礼子、菅原 真弓、百瀬 響、アレキサンダー・ベネット、岡本 貴久子、土谷 桃子、奈良岡 聰智、森岡 優紀、アリステア・スウェール、瀧井 一博、西山 由理花

近代東アジア文化史の再構築Ⅰ―19世紀の百年間を中心に

（研究代表者　劉 建輝）

〔共同研究者名〕

稲賀 繁美、石川 肇、劉 序楓、光平 有希、磯田 道史、井上 章一、森岡 優紀、稲垣 智恵、上垣外 憲一、陳 力衛、王 宝平、小倉 紀蔵、白幡 洋三郎、単 援朝、陳 継東、仲 万美子、松宮 貴之、森田 憲司、深尾 葉子、伊藤 謙、南 誠、李 偉、高橋 博巳、村田 雄二郎、岸 陽子、安藤 潤一郎、陳 捷、劉 岸偉、戦 暁梅、平岡 隆二、李 長波、閻 小妹

〔海外共同研究員名〕

孫 建軍、王 中忱、唐 権、孫 江、新井 菜穂子

〔研究発表〕

〈第2回研究会〉

2021年2月26日（オンライン開催）

劉 建輝「広州、上海、長崎――近代東アジアモダンロードの成立」

唐 権「来舶清人について：概念、資料と統計」

王 紫沁「松阪市蔵伊孚九筆『離合山水図』の制作と享受」

文明としてのスポーツ／文化としてのスポーツ

（研究代表者　牛村 圭）

〔共同研究者名〕

フレデリック・クレインス、稲賀 繁美、劉 建輝、ジョン・ブリーン、光平 有希、西山 由理花、倉田 健太、田村 美由紀、増田 斎、井上 章一、古田島 洋介、藤田 大誠、川島 浩平、佐伯 順子、佐々木 浩雄、高嶋 航、竹村 民郎、等松 春夫、永井 久美子、堀 まどか、吉江 弘和

〔海外共同研究員名〕
徐 載坤、杉田 智美
〈第3回研究会〉
2020年9月27日（オンライン開催）
堀 まどか「ヨガは、スポーツか？―アメリカ初期ヨーガ導師に出逢った木村秀雄・駒子夫妻を中心に」
佐々木 浩雄「日本代表の誕生とスポーツの国家的有用性：オリンピック選手派遣費をめぐる動向を中心に（1912–1938）」
牛村 圭「書評セクション　高嶋 航『国家とスポーツ―岡部平太と満州の夢』（角川書店、2020年）」
〈第4回研究会〉
2020年11月28日（オンライン開催）
窪田 暁（ゲストスピーカー）「スポーツ人類学概論：その学説史と最新動向」
〈第5回研究会〉
2021年3月28日（オンライン開催）
町田 樹（ゲストスピーカー）「アーティスティックスポーツの文明開化：フィギュアスケートにおけるスポーツとアートの相互交渉史」
酒瀬川 亮介（ゲストスピーカー）「ドーピングの半世紀をたどる」

〈国際共同研究〉
身体イメージの想像と展開―医療・美術・民間信仰の狭間で
（研究代表者　安井 眞奈美、ローレンス・マルソー）
〔共同研究者名〕
木場 貴俊、石上 阿希、井上 章一、古川 綾子、前川 志織、山田 奨治、坂 知尋、光平 有希、アストギク・ホワニシャン、姜 姍、川橋 範子、香西 豊子、板坂 則子、中本 剛二、相田 満、蘆田 宏、今井 秀和、遠藤 誠之、越智 秀一、木森 圭一郎、倉田 誠、桑原 牧子、鈴木 則子、鈴木 由利子、高橋 淑子、田里 千代、波平 恵美子、松岡 悦子、宮崎 康子、エドワード・ドロット、伊藤 謙、阿部 奈緒美、木下 知威、二宮 美鈴、稲田 健一、多田 伊織
〔海外共同研究員名〕
金 容儀、魯 成煥、杉田 智美
〔研究発表〕
〈第9回研究会〉
2020年7月18日（オンライン同時開催）

香西 豊子「書評会『種痘という〈衛生〉近世日本における予防接種の歴史』（2019年、東京大学出版会）「21世紀の疫因論」『現代思想 緊急特集：感染／パンデミック』5月号（2020年）」

今井 秀和「胎児と幼児の神秘イメージ―鬼子、予言児、件の系譜」

〈第10回研究会〉

2020年9月12日（オンライン同時開催）

田里 千代「スポーツをする場の形と身体―暴力性との関わりから」

金 容儀「松本清張小説における殺人犯罪と身体」

姜 姍「生と死の境界―江戸時代鍼灸胴（銅）人形における身体観念について」

2020年9月13日（オンライン同時開催）

鈴木 則子「江戸時代のコレラをめぐる生活史」

前川 志織「戦間期日本のチョコレート広告にみる「少女」の身体表象」

〈第11回研究会〉

2020年11月28日（オンライン同時開催）

安井 眞奈美「共同研究会の成果報告としての身体に関する展示」

光平 有希「西洋医学史古典文献・宗田文庫図版資料の概要その2」

伊藤 謙「バーチャル・ミュージアムの可能性」

二宮 美鈴「出品検討中の適塾関係資料の紹介」

中本 剛二「医療の中の死者と身体」

〈第12回研究会〉

2021年1月9日（オンライン開催）

安井 眞奈美「共同研究会の成果報告としての身体に関する展示・打ち合わせ」

木下 知威「近代日本における視・聴覚障害の身体イメージについて」

多田 伊織「島国を襲う疫病―アテナイと日本」

2021年1月10日（オンライン開催）

板坂 則子「死体から生まれた赤子―戯作に見る母と子の身体」

阿部 奈緒美「間引き図絵による民衆教諭と〈産むべき〉身体観」

東アジアにおける哲学の生成と展開―間文化の視点から

（研究代表者　廖 欽彬）

〔共同研究者名〕

伊東 貴之、稲賀 繁美、劉 建輝、谷 徹、石井 剛、杉村 靖彦、小倉 紀蔵、上原 麻有子、志野 好伸、中島 隆博、浜渦 辰二、植村 和秀、

合田 正人、藤田 正勝、井川 義次、嶺 秀樹、安部 浩、景山 洋平、竹花 洋佑、太田 裕信、亀井 大輔、林 永強、秋富 克哉、出口 康夫、植村 玄輝、ダリシエ・ミシェル、張 政遠、河合 一樹、山村 奨

〔海外共同研究員名〕

王 青、呉 偉明、佐藤 将之、樋口 達郎

〔研究発表〕

〈第2回研究会〉

2020年5月24日（オンライン開催）

牧野 英二（ゲストスピーカー）「ディルタイ哲学と京都学派」

嶺 秀樹「西田と九鬼における永遠の今の思想――場所論と実存論の観点から」

安部 浩「和辻・マルクス・アリストテレス――和辻倫理学の生成」

佐藤 将之「近代日本における中国哲学の誕生――明治10年代に東京大学で行われた諸講義を中心に」

植村 和秀「哲学・批判・反知性主義」

竹花 洋祐「歴史主義としての田辺哲学」

太田 裕信「西田幾多郎と柳宗悦」

〈第3回研究会〉

（所外開催　京都大学北部総合教育研究棟益川ホール）

2020年8月28日（オンライン同時開催）

杉村 靖彦「懺悔道のポエティクスに向けて――田辺元『ヴァレリーの芸術哲学』再読」

亀井 大輔「デリダと九鬼周造――偶然性をめぐって」

張 政遠「御進講と日本哲学」

植村 玄輝「現象学者としての尾高朝雄」

景山 洋平「日本のハイデガー受容における弁証法」

2020年8月29日（オンライン同時開催）

宮沢 千尋（ゲストスピーカー）「植民地期ベトナムの言語・文化ナショナリズム――ファム・クインと『南風雑誌』を中心に」

小倉 紀蔵「霊性論から哲学へ――近代日本と朝鮮の場合」

石井 剛「感情、共感、政治――中国近代哲学からのアプローチ」

山村 奨「日本の倫理学における和辻哲郎」

稲賀 繁美「感情移入と気韻生動の周辺」

佐藤 麻貴（ゲストスピーカー）「音をめぐる、めぐる音――立ち現われ一元論的、音の世界」

河合 一樹「近代日本美学と「あはれ」――大西克礼を中心として」

〈第4回研究会〉

2020年9月27日（オンライン開催）

浜渦 辰二「日本哲学史展開期におけるフッサール現象学の受容」

鈴木 将久（ゲストスピーカー）「革命文学論争における彭康」

王 嘉新（ゲストスピーカー）「近代中国哲学におけるベルグソンの受容――彭康を中心に」

朱 剛（ゲストスピーカー）「家の現象学――ハイデガー、レヴィナスから儒家へ」

張 偉（ゲストスピーカー）「静寂意識と万物一体」

〈第5回研究会〉

2020年10月31日（オンライン開催）

陳 徳中（ゲストスピーカー）「中国における哲学研究――近代後期以来の状況」

邱 建碩（ゲストスピーカー）「墨子の「尚同」思想と多元的社会」

洪 子偉（ゲストスピーカー）「Taiwanese Philosophy: From the Sit-Chûn Movement to Austronesian Indigenous Epistemology」

鬼頭 葉子（ゲストスピーカー）「田辺元『キリスト教の辯證』における終末論の意義」

〈第6回研究会〉

2021年2月6日（オンライン開催）

直江 清隆（ゲストスピーカー）「三枝博音と媒介の思想」

飯嶋 裕治（ゲストスピーカー）「和辻哲郎の倫理学の出発点――大正期のニーチェ解釈との関連性から」

横山 陸（ゲストスピーカー）「悔恨の哲学――田辺とシェーラーの比較から」

王 青「『善の研究』と中国思想」

林 永強「Rereading Nishida Kitarō as a New Confucian: With a Focus on His Early Moral Philosophy」

2021年2月7日（オンライン開催）

フォンガロ・エンリコ（ゲストスピーカー）「永遠と体験―西田幾多郎の時間論に関する考察」

合田 正人「海と島々からの日本思想史――和辻哲郎『風土』『鎖国』から」

呉 偉明「近世における「漢神」の日本化について」

方 向紅（ゲストスピーカー）「モナドロジーの論理中断と朱熹の理気論による現象学の再構築――気の現象学の必要性と可能性」

秋富 克哉「「詩人としてこの大地の上に住む」――西谷啓治『寒山詩』に即して」

志野 好伸「西田幾多郎の「物」をめぐる思想―源了圓論文を承けて」

帝国のはざまを生きる―帝国日本と東アジアにおける移民・旅行と文化表象

（研究代表者　蘭 信三、松田 利彦）

〔共同研究者名〕

劉 建輝、単 荷君、高 燕文、中山 大将、権 香淑、野入 直美、八尾 祥平、李 洪章、石川 亮太、原 佑介、木下 昭、長沢 一恵、深尾 葉子、坂部 晶子、高 媛、塚瀬 進、丁 智恵、福本 拓、松平 けあき、孫 嘉睿、上田 貴子、ニコラス・ランブレクト

〔海外共同研究員名〕

張 嵐、朴 裕河、陳 姃湲、李 正熙

〔研究発表〕

〈第4回研究会〉

2020年8月27日（オンライン同時開催）

朴 裕河「日本人妻とジェンダーポリティックス――戦後日本における越境の問題を考える」

ニコラス・ランブレクト「李恢成と戦後引揚げ」

李 洪章「在日朝鮮人留学生政治犯にとっての「母国」と「統一」―金元重の語りに着目して」

高 媛「戦前における満洲ツーリズムと中国人社会」

長沢 一恵「戦前期における日本～朝鮮半島を結ぶ航路形成―京都府・舞鶴港を中心に」

李 正熙「朝鮮華僑の中華商会研究―大邱中華商会を中心に」

野入 直美「「湾生映画」に見る植民地二世の記憶と表象」

植民地帝国日本とグローバルな知の連環

（研究代表者　松田 利彦）

〔共同研究者名〕

劉 建輝、光平 有希、単 荷君、高 燕文、香西 豊子、駒込 武、高野 麻子、福士 由紀、石原 あえか、石川 亮太、愼 蒼健、中生 勝美、李 昇燁、加藤 道也、やまだ あつし、通堂 あゆみ、米谷 匡史、加藤 茂生、長沢 一恵、都留 俊太郎

〔海外共同研究員名〕

顔 杏如、朴 潤載、陳 姃湲、鄭 駿永

〔研究発表〕

〈第1回研究会〉

2020年10月11日（オンライン同時開催）
松田 利彦「研究会の狙い」
〈第2回研究会〉
2021年3月13日（オンライン開催）
加藤 茂生「書評『植民地帝国日本における知と権力』」
中生 勝美「日本植民地における異民族統治と人類学：西洋植民地との比較から」
加藤 道也「満洲国と駒井徳三―統治認識を中心に」

蜘蛛の巣上の無明：電子情報網生態系下の身心知の将来
（研究代表者　稲賀 繁美）
〔共同研究者名〕
フレデリック・クレインス、石川 肇、松木 裕美、光平 有希、根川 幸男、飯窪 秀樹、鋳物 美佳、春藤 献一、陳 イジェ、二村 淳子、君島 彩子、前川 志織、ゴウランガ・チャラン・プラダン、齊藤 紅葉、藤本 憲正、寺本 敬子、志賀 祐紀、白石 恵理、森岡 優紀、今泉 宜子、岩井 茂樹、鵜戸 聡、江口 久美、大西 宏志、小倉 紀蔵、尾鍋 智子、加藤 善朗、申 昌浩、莊 千慧、滝澤 修身、竹村 民郎、多田 伊織、土居 浩、戸矢 理衣奈、平倉 圭、堀 まどか、松井 裕美、松村 薫子、村中 由美子、藤貫 裕
〔海外共同研究員名〕
デンニッツァ・ガブラコヴァ、近藤 貴子、ミツヨ・デルクール＝イトナガ、片岡 真伊
〔研究発表〕
〈第1回研究会〉
2020年7月10日（オンライン開催）
江口 久美「都市／建築と蜘蛛の巣と身体」
二村 淳子「阮文素の藝術論―フランスへの返答」
鋳物 美佳「柳生新陰流剣術稽古における工夫：行為的直観を手がかりとして」
2020年7月11日（オンライン開催）
飯窪 秀樹「北米、ブラジル、満州、および戦後移植民事業の連続性～構築と実施における信濃系の果たした役割～」
〈第2回研究会〉
2020年9月5日（オンライン開催）
松井 裕美「蜘蛛の巣を編む　ダイアグラムとアナロジー」
平倉 圭「異種と踊る――宮沢賢治「蠕蟲舞手」のタイポグラフィー」

根川 幸男「帝国と新大陸の〈あいだ〉：南米行き移民船をめぐる感染症との闘い」
〈第3回研究会〉
2020年10月11日（オンライン同時開催）
根川 幸男「帝国と新大陸の〈あいだ〉：南米行き移民船をめぐる感染症との闘い」
滝澤 修身「あいだの哲学―キリシタン時代を通して―」
ミツヨ・デルクール＝イトナガ「紡ぐ。永遠・共生・科学―アーティスト4人の作品と提言」
2020年10月12日（オンライン同時開催）
多田 伊織「謫仙　藤井聡太　異能の扱われ方」
〈第4回研究会〉
2021年1月29日（オンライン開催）
春藤 献一「愛護される動物と駆除される動物―蜘蛛から考える」
君島 彩子「パンデミックと仏像―なぜ地蔵にマスクをつけるのか？―」
2021年1月30日（オンライン開催）
鈴木 洋仁（ゲストスピーカー）「加藤秀俊「あいだ」の人」
〈第5回研究会〉
2021年2月20日（オンライン開催）
森岡 優紀「身体と認知：自閉症スペクトラム者の自伝から」
稲賀 繁美「蜘蛛の巣上の無明研究会　今年度まとめと来年度予定」

巫俗と占術の現在―東アジア世界の民間信仰の伝播と展開
（研究代表者　吉村 美香、榎本 渉）
〔共同研究者名〕
倉本 一宏、木場 貴俊、久葉 智代、龔 婷、廬 雪健、宋 丹丹、島村 恭則、細井 浩志、徳永 誓子、水口 幹記、佐々木 聡、髙橋 あやの、深澤 瞳、山下 克明、奈良場 勝、上野 勝之、林 淳、平野 多恵、中町 泰子、大形 徹、塩月 亮子、宮島 一彦、東畑 開人
〔海外共同研究員名〕
大野 裕司、魯 成煥、鄭 宰相
〔研究発表〕
〈第1回研究会〉
2020年7月5日（オンライン同時開催）
小南 一郎（ゲストスピーカー）「殷墟の卜辞は占いといえるのかの検討」
〈第2回研究会〉

2020年10月10日（オンライン同時開催）
奈良場 勝「大雑書の易をめぐる書林の動き」
宮島 一彦「七夕の伝説と信仰」
平野 多恵「おみくじの現在―神の託宣歌から歌占、和歌みくじへ」
〈第3回研究会〉
2021年3月6日（オンライン開催）
徳永 誓子「中世における巫女の呪具」
上野 勝之「日本古代・中世における託宣の性格―護法占以前」
山下 克明「陰陽道の祭祀と祭文―百怪祭をめぐって」
中町 泰子「横浜中華街における占い店舗群の形成とその担い手に関する考察」
大形 徹「巫術と占術―巫と筮をめぐって」
水口 幹記「蘇民将来札再考」

〈基幹共同研究〉
近代東アジアの風俗史
（研究代表者　劉 建輝、斎藤 光）
〔共同研究者名〕

井上 章一、石川 肇、安井 眞奈美、唐 権、申 昌浩、永井 良和、西村 大志、濱田 陽、李 珣淑、嘉本 伊都子、加藤 政洋、崔 吉城、矢原 章、川井 ゆう、岩井 茂樹、井上 雅人、長田 俊樹、木村 立哉、仲 万美子、橋爪 節也、北浦 寛之、土居 浩、劉 玲芳
〔研究発表〕
〈第12回研究会〉
2020年7月11日（オンライン同時開催）
安井 眞奈美「洗濯の民俗」
斎藤 光「カフェーを特殊させる流れについて」
2020年7月12日（オンライン同時開催）
木村 立哉「成人映画」
井上 章一「裸体美術の東アジア」
〈第13回研究会〉
2020年10月3日（オンライン同時開催）
濱田 陽「名・暦・歳の多様性」
長田 俊樹「沙羅双樹再考」
2020年10月4日（オンライン同時開催）
土居 浩「葬墓制の近代化（？）」
李 珣淑「「オンドル」と日韓の近代」

〈第14回研究会〉
2020年12月26日（オンライン同時開催）
井上 章一「カフェー時代の花柳界」
木村 立哉「映画とカフェー」
2020年12月27日（オンライン同時開催）
斎藤 光「カフェーとは何だったのか」

「かのように」という原理で形成してきた文通―「文書」概念や、その様式、記号、表象、意図性
（研究代表者　マルクス・リュッターマン）
〔共同研究者名〕
荒木 浩、榎本 渉、磯前 順一、廣田 浩治、梶谷 真司、金 泰虎、小島 道裕、森 洋久、小口 雅史、岡崎 敦、高橋 一樹、ウィッターン・キリスティアン
〔海外共同研究員名〕
ミハエル・キンスキー、イエルグ・クウェンサー
〈第6回研究会〉
2020年10月24日（オンライン開催）
小島 道裕「日本の文書史から考える比較古文書研究の課題」
〈第7回研究会〉
2021年2月20日（オンライン開催）
岡崎 敦「西欧文書学とアーカイブズ学―諸原則と現代的展開―」

縮小社会の文化創造：個・ネットワーク・資本・制度の観点から
（研究代表者　山田 奨治）
〔共同研究者名〕
松田 利彦、田村 美由紀、太下 義之、佐野 真由子、谷川 建司、大石 真澄、小川 さやか、荻野 幸太郎、沢田 眉香子、服部 圭郎、服部 正、三脇 康生、山本 泰三、吉澤 弥生、吉村 和真、山下 典子、木村 智哉、伊藤 遊
〔海外共同研究員名〕
玉野井 麻利子
〈第5回研究会〉
2020年7月18日（オンライン同時開催）
服部 圭郎「縮小時代における都市のつくり方」
広井 良典（ゲストスピーカー）「人口減少社会のデザイン――ポスト成長時代の創造性」

〈第6回研究会〉
2020年9月26日（オンライン同時開催）
山下 典子「縮小社会におけるアグリツーリズムの可能性」
沢田 眉香子「庶民による、美と価値の下克上はあるか」
〈第7回研究会〉
2020年12月19日（オンライン開催）
砂連尾 理（ゲストスピーカー）「とつとつダンスの実践からこれからの社会の文化創造を考える」
三脇 康生「アートの社会的処方は可能か？―中動態の議論を超えて―」
2021年3月13日（オンライン開催）
山森 亮（ゲストスピーカー）「草の根の経済思想：1970年代イギリス労働者階級　女性解放運動のオーラルヒストリーから」
山本 泰三「現代の資本主義における労働」

戦後日本の傷跡
（研究代表者　坪井 秀人、宇野田 尚哉）
〔共同研究者名〕

アストギク・ホワニシャン、田村 美由紀、増田 斎、葉 暁瑶、橋川 智也、石川 巧、辛島 理人、川口 隆行、黒川 伊織、小杉 亮子、飯田 祐子、高 榮蘭、佐藤 泉、美馬 達哉、鳥羽 耕史、宋 恵媛、光石 亜由美、ニコラス・ランブレクト、キツニック・ラウリ、解 放、中村 平、髙畑 早希、奥村 華子、市川 遥
〔海外共同研究員名〕
キアラ・コマストリ
〈第1回研究会〉
2020年4月10日（オンライン開催）
坪井 秀人、宇野田 尚哉「プロジェクトの趣旨説明」
〈第2回研究会〉
2020年7月4日（オンライン同時開催）
宇野田 尚哉「「戦後」・「冷戦」と「対抗」文化」
2020年7月5日（オンライン同時開催）
キツニック・ラウリ「脚本家水木洋子と戦後社会派映画再考」
鳥羽 耕史「母の死とオリンピック――水川淳三監督『おかあさんのばか』（1964）をめぐって」
山本 直樹（ゲストスピーカー）「アレゴリーとしての傷痕」
〈第3回研究会〉

2020年11月14日（オンライン同時開催）
飯田 祐子「再生産領域の文化的配置」
美馬 達哉「新型コロナウイルス感染症の傷跡」
アストギク・ホワニシャン「知的障害者施設または旧優生保護法の被害者について」
2020年11月15日（オンライン同時開催）
市川 遥「傷痍軍人と文学」
葉 暁瑶「『虹いくたび』における戦争の傷痕」
光石 亜由美「敗戦のトラウマと性的不能、あるいはエロティックな戦争」
金 貴粉（ゲストスピーカー）「在日朝鮮人とハンセン病―戦後を中心に―」
〈第4回研究会〉
2021年2月21日（オンライン開催）
辛島 理人「神戸からの戦後日本」
宇野田 尚哉「べ平連こうべの軌跡」
黒川 伊織「ある在阪沖縄人「党生活者」の経験」

日本型教育の文明史的位相 (15)

（研究代表者　瀧井 一博）
〔共同研究者名〕
根川 幸男、齊藤 紅葉、稲垣 恭子、竹内 里欧、西田 彰一、齊藤 智、ラプリー・ジェルミー、安藤 幸、井上 義和、椎名 健人、高山 敬太、片山 杜秀、宇野 重規、柏木 敦、大澤 聡、大田 美佐子、阿川 尚之、足羽 與志子、礒山 麻衣、待鳥 聡史、瀬平劉 アントン、大中 有信、平松 隆円
〔海外共同研究員名〕
苅谷 剛彦
〈第1回研究会〉
2020年9月19日（オンライン同時開催）
稲垣 恭子「共同研究会「「日本型」教育文化を問い直す―新たな人間形成論をめざして」を振り返って」
瀧井 一博「日本型教育の文明史とは」
2020年9月20日
今後の研究計画について打ち合わせ
〈第2回研究会〉
2020年11月28日（オンライン開催）

高山 敬太「日本型教育の海外展開事業（EDU-Port ニッポン）とは何か」
苅谷 剛彦「『追いついた近代　消えた近代』（岩波書店、2019 年）書評会」
〈第 3 回研究会〉
2021 年 3 月 13 日（オンライン開催）
平松 隆円「女子教育と美」
井上 章一「魅惑のミッションスクール」

貴族とは何か、武士とは何か
（研究代表者　倉本 一宏）
〔共同研究者名〕
榎本 渉、呉座 勇一、伊東 貴之、磯田 道史、龔 婷、久葉 智代、堀井 佳代子、青山 幹哉、石田 俊、上野 勝之、大石 学、岡野 友彦、川合 康、木下 聡、京楽 真帆子、東海林 亜矢子、関 幸彦、髙橋 昌明、田中 誠、佃 美香、告井 幸男、寺内 浩、野口 孝子、野口 実、東島 誠、樋口 健太郎、カレル・フィアラ、服藤 早苗、松田 敬之、松永 和浩、美川 圭、森 公章、刑部 芳則、川西 孝男、重田 香澄

〔海外共同研究員名〕
宋 浣範、梁 暁弈、劉 暁峰
〈第 1 回研究会〉
2020 年 7 月 4 日（オンライン同時開催）
野口 実「中世成立期における東国武士の『勢力』について―「鎌倉政権」再考」
呉座 勇一「武士論の成果と課題」
〈第 2 回研究会〉
2020 年 10 月 10 日（オンライン同時開催）
髙橋 昌明「〝余〟は如何にして新武士論の提唱者になりし乎」
カレル・フィアラ「日本とチェコにおける貴族と武士・騎士の成立と発展」
上野 勝之「触穢とケガレ」
佃 美香「平安時代から鎌倉時代にかけての即位式の変化」
〈第 3 回研究会〉
2021 年 1 月 9 日（オンライン同時開催）
樋口 健太郎「平安・鎌倉時代の摂関家と武家勢力」
服藤 早苗「平安時代の婚姻形態　天皇・貴族・武士～研究史を中心に」

美川 圭「貴族はいかにして生き残ったか―俊成・定家と冷泉家―」
石田 俊「萩藩毛利家における公武婚」
〈第4回研究会〉
2021年3月6日（オンライン開催）
寺内 浩「10世紀国家軍制の再検討」
木下 聡「室町幕府と公家間の人的関係について」
田中 誠「鎌倉末～南北朝期の幕府評定衆・奉行人と戦乱」
堀井 佳代子「貴族の狩猟再考」

（文責：研究協力課）

◆基礎領域研究

英文日本歴史研究書講読（継続）
代表者　牛村 圭
概　要　達意の英語で書かれた日本史研究書を素材に、英文を正しく読み、自然な日本語にする手法の修得を目指す。

中世文学講読（継続）
代表者　荒木 浩
概　要　日本中世文学の文献を、影印を参照し、英訳などとも対比しながら精読するとともに、最新の研究動向などについての発表や情報交換の場としても活用する。

韓国語の運用（基礎・応用）（継続）
代表者　松田 利彦
概　要　業務や研究で韓国語を必要とする職員・大学院生等を対象に韓国語の会話・作文・読解の習得を目指した授業を行う。基本的に昨年度からの受講生を対象としているが、ある程度学習歴のある方の新規受講も歓迎する（要相談）。

古記録学基礎研究（継続）
代表者　倉本 一宏
概　要　日本前近代の根幹的史料である古記録の解読を、原本や写本の見方・扱い方も含めて考えていく。当面、源経頼の『左経記』を読む。

フランス語基礎運用（初級）（継続）
代表者　稲賀 繁美
概　要　初心者を対象として、初歩の運用能力を実践的に身に付ける。教科書としては市販の教材の準備を参加者各自にお願いする。他の教材は現場で提供する。